

百年しばた

--- 百年しばた宣言 ---

私は 2013 年 7 月 16 日に偶然に知り合いになった方に新発田の駅前に総合施設が出来て図書館がその中に新設されると言う事を聞きました。噂の様なもので聞いてはいたのですが、決定事項であるかの様になっている事に驚きました。

疑問点がいくつかあったのでパブリックコメントの中で指摘すると共に、幾人かの友人達と話し合いました。多くの方々にインタビューを行いました。

その話し合いで出て来たのは、単に批判するのではなく、具体的な「代案」と「根拠」を上げねばならないのではないかと言う物でした。

私は、このようにほとんど実施段階に近い状態で初めて市民がその全容を知ると言う事自身、悪いのは「市民の無関心」だと考えています。

私自身も、その無関心な市民の一人だと反省しています。そこで、このプロジェクトを立ち上げました。

市民が、市政に関心を持ち参加して行く事は重要です。新発田市中心市街地活性化基本計画（案）の中にも同様のことが記載されています。

百年の時の長さから見た時私たちの人生は加治川の流れの泡の様な物です。しかしながら、子、孫、曾孫の代に記憶してもらいたいと思います。そして私たち市民が遠い昔にこの地に生きた人々を愛し思い出す様に記憶してもらえる様に考えて行きましょう。

百年しばた プロジェクト

2013/7/29 βバージョン
2013/7/31 第一稿
2013/8/1 第三稿

「百年しばた」は市政に市民が積極的に参加して行く為のしくみです。

情報を共有する事で、市民、市民団体を結びつける事を目的とします。
ここで言う市民とは単に「新発田市民」を意味するだけでなく、公民（civil）を意味します。

市民団体とは個人としての活動、数人の集り、政党、会社、組合、個人商店といった市民の集まりを含みます。

この仕組みは、特定の団体、個人を誹謗する事は目的としていません。
特定の政党、権益団体にくみする事はありません。

リコールなどの直接請求を目的とする事はありません。落選運動などの政治的な活動を行うことも有りません。また同様に参加する市民団体が直接請求、落選運動などを行う事を妨げることはありません。

それぞれの人間は生活があります。そして生活と言うのは厄介な物です。
市役所に勤めていればなかなか批判も出来ません。受注する企業は社員の生活がかかっているのだから賛成するでしょう。私も企業の経営者です。社員に給料を払う苦しさは良く分かります。

その様なしがらみは、自由な議論を封じ込めてしまいます。
政治的無関心が助長されていきます。

立場を超えて情報を共有して話し合うことで広く市民は結びつきます。

情報の共有手段としては各市民団体内での議論、チラシ配り、インターネットにサイトを開設して広く情報を共有して行きます。

本文書は多くの市民の協力で出来上がっています。しかしながら文責は全て齋藤真也が負います。ご意見、提案、ご批判は私の方にお伝え下さい。
随時ネットで公開して参ります。

窓口は株式会社平野屋コンピューティング 代表取締役 齋藤真也がおこないます。

所在地：

〒957-0053 新潟県新発田市中央町 5-3-12

株式会社平野屋コンピューティング 代表取締役 齋藤真也

100@hcpt.jp <http://www.hcpt.jp/100/>

080-2049-3853

カンパ・ボランティア募集しています。

ゆうちょ銀行 店名：一二人（読み イチニイハチ） 店番：128

普通預金 2788715 百年しばた（ヒャクネンシバタ）

目 次

- 新発田市中心市街地活性化基本計画の概要
- 百年しばたのグランドビジョン

- 1) 新発田の東西問題に関して
- 2) 中央商店街に関して
- 3) 駅前総合施設への図書館の移転に関して
- 4) 市役所の移転に関して

補論 1) 住民投票を行うべきかに付いての考察

補論 2) 企業広告によるメディアと私たちの生活についての考察

補論 3) 参考資料：先の市長選での現市長の公約

補論 4) 私のこと

新発田市中心市街地活性化基本計画（案）の概要

○駅西側に複合施設を造る。

複合施設には図書館、観光案内所、子どもセンター、多目的スペース、キッチンスタジオなどが入る。

○駅東側にコミュニティセンターを造る

○市内の中心に市役所を新設する

基本計画からは外れますが、中央商店街の復興と関連しています。

○これらの施策により市の中央商店街に人の流れを生んで活性化を計る

○具体的な施設の内容は今後明らかになって行く。

いかにしてまち中ににぎわいを創出するか、これが一番大きなコンセプトになる（二階堂市長 2013/6/3 全員協議会 P7）

この計画は副市長をキャップとして関係する課長とのプロジェクトチームによって作成された。（二階堂市長 2013/6/3 全員協議会 P11）

郊外においては、大型店舗が.....これ（大型店舗）と相対して戦わなければならないと言う地元の商店街の状況（二階堂市長 2013/6/3 全員協議会 P11）

駅の橋上化反対と言う公約で、選挙で選ばれたが、今回の億単位の投資を駅前にする事と矛盾するのではないか（小柳議員の質問）。

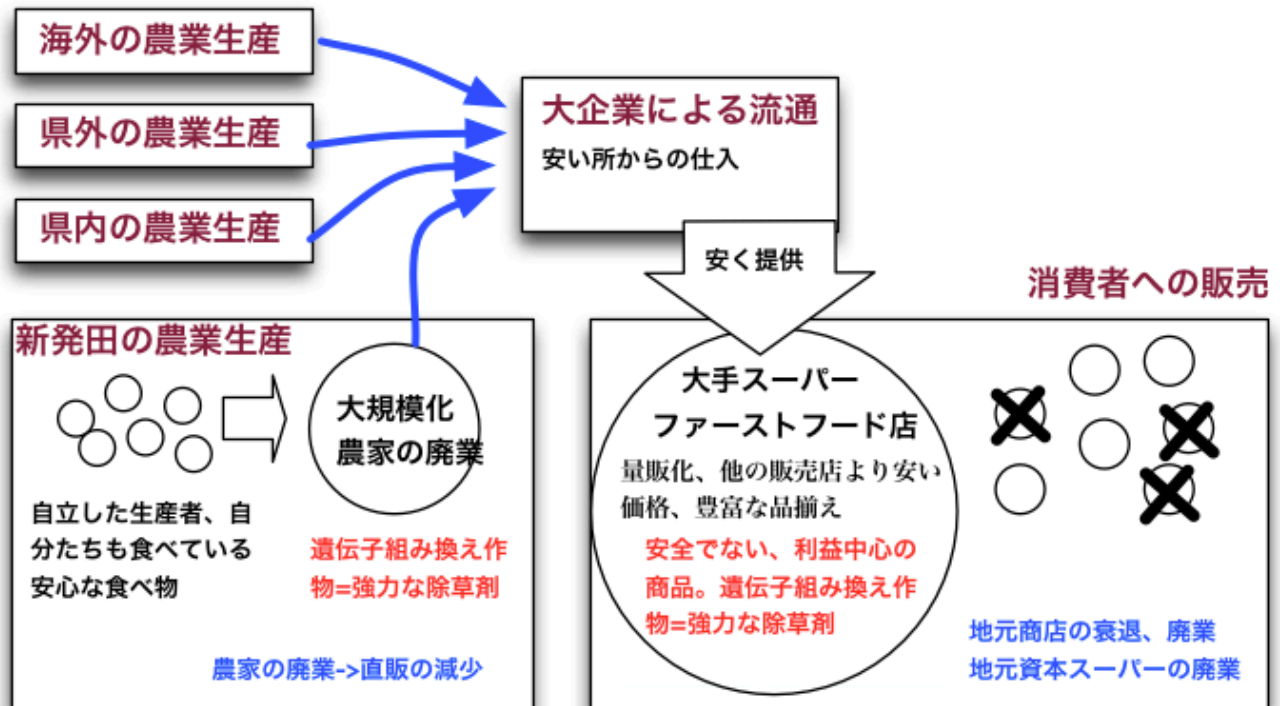
->にぎわい創出の為にこのお金をかけるのだから、矛盾しない（二階堂市長の返事 2013/6/3 全員協議会 P14）

○「百年しばた」のグランドビジョン

1) グローバリズムと地産地消

全世界を覆っているグローバル化（TPP の参加に代表される）の流れは新発田を覆っています。

グローバリズムを簡単な図式で表すと以下の様になっています。



生活者（私たち市民）が『大型店舗、大手スーパーで買い物』、『安いファーストフード店の利用』するのは当たり前です。

人はただ安ければいいという「市場経済の原則」にあらがう事は難しい物です。そして不況下では食費を削ると言うのはしかたが無い結論です。決してそれを責めることはできません。先進国で給料（可処分所得）が減っているのは日本だけだと言う統計結果が有ります。

最近、地元産の野菜を売っている大手スーパーが有ります。皆さんもご覧になったことが有るでしょう。消費者が少しずつ気がついて来たからです。しかしながら、「プチグローバリズム」とでも言う様な流れだと僕は考えています。大手スーパーが地産地消をうたって、差別化を図っているのです。そういった企業努力は悪い事では有りませんが、なぜ僕らは、近隣自治体

の作物を食べねばならないのでしょうか？地場物と言いながら、ここで頑張っている人たちの作っている物では有りません。

その地に生きて、喜びや悲しみを共有していたコミュニティは破壊されて、結びつきを失った個人は、市民という自主性を持った生きている人間としての存在さえも失いつつあります。

「百年しばた」は「地産地消」こそが人々の絆をよみがえらせて、自覚ある市民として生きることができるキーワードと考えています。

僕は地域で頑張っている農家、地元資本のスーパー、自分たちのポリシーを持った小さい商店を助ける事で、自分たちが助けられることを知っています。そしてそれをより多くの市民と共有したいと思います。

「医療、教育、食事」は市場経済になじまないと考えています。消費者が安い商品を買う、企業努力で安い物を提供する事は良いことだ。という「市場経済」の原則はすでに昔のおとぎ話です。

政治は私たち市民に税金の使い方を「委託」されているだけです。市長は多様な市民ニーズを受けての行政に様々な施策の計画立案を指示します。議会はそれを精査します。政治は「分配」をその権力の原資としています。自治体は補助金を受けて企業に分配して、市民は企業から給料を得るという経済モデルを思い出して下さい。

行政は市民の側に立ったポリシーを持ち「分配」を考えなければなりません。政治-行政は市民の幸福を目的の第一に置かねばなりません。そして市民はしっかりと政治の方向を見つめ参加して行く事で「委託」が適切に動いているか監視しなければならないのです。

2) 補助金バラまきの未来と新発田の行く末

私たちの資産を担保にした国レベルの借金の未来

確かに、現在国で発行している国債は国内で買われています。それが補助金の原資となっています（一般論ですが）。しかしながら TPP をはじめと

する世界を覆う資本主義経済は日本の貯蓄を狙い、海外の国、多国籍企業に移そうとしています。

経済の国際化（企業の多国籍化）は既に国と言う単位が市民を守る為の意志決定には向かない物となっています。TPPに多くの国内企業が賛成しています。（キャノンの様な外資49%の国内企業が良い例です。）

30年後、借金を続けることができなくなったとき「しばた」はどうなるのでしょうか。

一般論ですが、補助金にまみれて、行政と一部企業が造ったシナリオで箱ものを作って行く。箱ものは使われなくて、維持費ばかりかかる。市民はそんな自治体に愛想を尽かし、人口の流出はとまらない。元気な企業は消えて行く。そんな自治体は世界中に掃いて捨てるほどあります。

新発田がそうであるかどうかは分かりません。しかしながら市民が市政に無関心な現状は悪い兆候です。

本当の意味で新発田を元気にして行く施策がなされなければ第二のデトロイト、第二の夕張市、とならないと誰が言い切れるのでしょうか？

「私たちの人生の後に来る洪水を心配する事はない」と言う人もいます。僕はそうは思いません。

*フランス革命期（1700年代）「ポンパドゥール侯爵夫人」の言葉「大洪水よ、わが亡きあとに来たれ！」より。

もっと新発田に元気な企業が出来て行かねばなりません。

もっと新発田の農業を繁栄させねばなりません。

地元のスーパーやポリシーを持った商店と共に生きて行かねばなりません。

3) 市民のための行政を実現するためには

行政は長く複雑な道筋でこの新発田を発展させて、長い将来にわたって活力のある街作りをしなければなりません。大変な仕事です。

同様に行政は強力な権力です。首長や議員が監視して、コントロールして行かねばなりません。

しかしながら、市民が自覚を持って政治に参加しなければ首長や議員は権益のある企業や行政、資金力のあるメディア（企業がスポンサーになってその利益の為の宣伝媒体）に顔が向いてしまいがちです。

4) 全ては私たちの弱い心と地域に根ざした企業の不在が責任

僕は 33 歳で新発田に帰りここで生きると決めました。僕の望む様な就職先は全く有りませんでした。

選挙運動にボランティアで行って見ないかと知り合いに勧められました。ボランティアで選挙運動に入る事で市の臨時職員に雇ってもらえるかもしれないと言う話があったからでした。

パブリックコメントを様々な企業の経営者に読んで頂いた時に、ある企業の経営者は「こんなものは駄目だ」と言いました。何をか言わんやです。

しかし、会社を経営している僕には彼の言葉を否定する気にはなりません。僕の会社が彼の会社と同じ様に市や関連企業から仕事を受注していたら何も言えないからです。

生活者（企業、公共団体などに属して企業の意向に従って働いて生活の糧を得る）である私たちの弱さが、権力にすり寄る考えを浮かべさせます。

僕は、全て市民の責任だと考えています。

市民一人一人が意識を持たなければなりません。

『キングコーン』と言う映画ではアメリカでの大規模農業が最近生まれた物で多くの農家の離農、生活の破壊が起こっていると言う事が描かれています。

フードインクと言う映画のむすびで「私たちは一日 3 回世界を変えるチャンスがある。朝食、昼食、夕食、で選択をする事で世界は変えられる」と語っています。

大事な事は市民の意識です。僕はそれこそが「食育」だと思っています。

「食育」の為にはキッチンスタジオの様な調理の方法を講習する場も必要でしょうが、もっと重要なことが有る筈です。

「新発田市中心市街地活性化基本計画」を読んで残念だった事はどの様なポリシーがベースになっているのかが読み取れなかった所です。

以下の各論では、「百年しばた」の考えている「新発田市中心市街地活性化基本計画」を論じたいと思います。

1) 新発田の東西問題（駅東側[裏]、駅西側[表]の開発）に関して

1-A-1) 基本的な考え方

行政が駅の橋上化を否定する気持ちは良く分かります。先の選挙での公約なのですから。しかしながら先の選挙では今回の「新発田市中心市街地活性化基本計画」も公約には有りませんでした。

もし「橋上化」と「駅前開発」が選挙での争点となったらどうなっていたでしょうか？

駅東にコミュニティセンターを造ると果たして駅東が活性化されるか大いに疑問です。駐車場は有料になるでしょう。果たしてその様な現状でコミュニティセンターを造った所でどの程度のニーズがあるのか良く分かりません。

駐車場が有料である必要性は、無料だと駅や病院の利用者が駐車するからです。無料券の配布などは事務の煩雑化やトラブルを生み、駐車料金は近縁の金額と同じにならねばなりません。30分無料などと言ってもこのような施設の利用は、駅の送迎とは訳が違いますからうまく機能するとは思えません。

豊町に住んでいる人たちと話しをしました。彼らのニーズは第一番目が駅の橋上化です。それが駄目だと言う事で、代案として何かしてもらいたいからコミュニティセンターと言う陳情が出ていると聞きます。

駅前開発に関しても同様です。自動車で行かねばならない様な施設を駅近辺に造るのは問題があります。

観光案内所にしても、従来型（市外、県外のお客様向けの）の観光案内では投下資本に対しての効果は考えられません。

皆さん、何処かに旅行する時に泊まる場所や行く所を決めないで電車で行きますか？少なくとも私や、私の知人にはそう言う旅行をする人はいません。

ネットで目的地を探し、宿泊の予約をして、自動車で行きます。

観光案内所に関しては、次章の中央商店街の所で触れますが新発田市在住の人たちに地産地消を伝えると言う方向で考えるべきです。

駅西に予定されている総合施設に関しては、駅を橋上化して、駅東に図書館などの施設を造り連絡通路でつなげ、図書館分室と勉強スペース、「地産地消ステーション」を造る事で必要なくなると思います。

企業の所有地はそれぞれに企業が活用を計れば良いことなので市が口出しする事ではないと思います。

1-B) 具体的な提言

1-B-1) 駅の橋上化を計画に含めるべき

1-B-1-1) 板山踏切の危険性が無くなる。

私は豊町の板山踏切のそばに住んでいました。カルチャーセンターの側から見ると大変入り組んだ構造です。商業高校の生徒達が列をなして歩きいつも危険だなあと感じていました。

駅の橋上化を行うことにより駅からの人の流れが大幅に変わります。

豊町の側の道を通り学校に向かう事で板山踏切を通る必要が無くなります。みんな地下通路を通るのが嫌で危険な踏切を通ります。

このメリットは大きいと思います。

確かに地下道は出来て随分と車の流れは変わった様ですが、あの狭い踏切に自転車や歩行者が端を歩き自動車が通る朝夕はゾットします。

橋上化と図書館（分室）を一体に造れば補助もうけられると思います。

1-B-1-2) 駅の東と西に施設を2つ造る必要が無くなる

橋上化を行う事で、駅の東と西は一気に繋がります。
新発田高校の生徒にとっては駅東に勉強スペースがあってそこで勉強をして、改札まで3分で行ける様になったらどんなに良いでしょうか。
無論新発田高校の生徒だけではなく全ての市民にとって有益です。
後述いたします「図書館分室」の件にしても駅の改札まですぐに行ける事で初めて機能します。

また、駅の橋上化と図書館新設を一括して行えば補助金が受けられるのではないのでしょうか。

1-B-1-3) 駐輪場の完備、レンタル自転車の営業

駅に一番求められているのは駐輪場です。
駅東に造られる施設の1Fが駐輪場になったらどんなに良いでしょうか？
駅西の側でも同様のニーズ（駐輪場の不足）があります。
もし、駅東と駅西の施設が橋上化された駅と繋がるならば最高ですが、これにはコストがかかりすぎるのではないかと思いますので優先順位は低くなります。
駅西の私有地の活用は、上手い方法が見つかるまでは自転車置き場程度の施設で良いかと思います。また何処かの企業が名乗りを上げるかもしれません。
レンタル自転車の営業を考えても良いかと思います。
昨今ではGPSを使ったレンタル自転車事業が始まっています。
新しいテクノロジーに裏付けられた新しい交通の姿です。
3.11以降の省エネルギーに対しての自治体の試みとしても評価されると思います。市役所や城跡などに拠点を造りGPS付きの自転車を自由に乗り捨てられたらエコで交通の渋滞を緩和する取り組みとして日本中から注目を浴びると思います。

1-B-1-4) 地産地消ステーション

ある農協の婦人部では20年以上朝市を続けています。他の農協などでも同様の試みが続けられています。
10年ほど前豊町に住んでいる頃、大好きで先の土曜日に久しぶりに行も行ってきました。バーコードで商品が管理されてビックリしました。
地飼いのニワトリの卵で造った卵掛けご飯は最高です。



その農協の方と話しをしました。爪の間には土が入っています。20 数年間の自分たちの取り組みを守って来た事を語って頂けました。現在、市（いち）の運営から多くの農家が離れている事、この試みが農家にとっては大変な負担である事を教えてもらえました。

こんな近くに僕たちの食を守ろうと努力している人たちを僕は市（いち）で買い物をする事で助けてこなかったことを考えると涙が止まりません。

農家の方が「自分が食べているものを売っている」、それは大変な価値です。

人は、道を歩いていて物が売っているから買うのではありません。そこに欲しい物があるから買いに行くのです。

地産地消ステーションにそう言った農家の人たちが造った農産物が並び、市民が買いにくる。

駅前30分無料の駐車場に自動車をおいて、新鮮で安全な農産物を買う。

好評になれば、市役所なんかでも売り始めることができます。

そんな時に、重要なのは統一的なバーコードとか効率的な物流の手段と言った智慧なのです。

地産地消ステーションに本当に自分が欲しい物があれば人は買いに行きます。ステーションでは今有る商品をwebカメラで配信して、それを見て会社帰りの夫にキュウリ買って来てとか卵買って来てとメールする。

面白いじゃないですか。

グローバリズムは残留農薬などの危険がある野菜を安さを武器に売っています。

それでも、最近スーパーなどでも生産者の顔入りの商品の販売が行われています。

まあ、少しはましですが、僕に言わせれば「プチグローバリズム」なのです。スーパーは生産者から仕入れて利益を乗せて売ります。確かに外国産の野菜に比べれば安全かもしれませんが、利益は遠くに住むスーパーの経営者の物になります。

僕は、出来るだけ多くの金額を新発田の農家の人に渡したいのです。そしてそのお金で農業が素晴らしい仕事だと言う事を僕らに伝えてもらいたいのです。

僕が小さい頃、小学校の前でビーチパラソルをさしてトマトを売っているお婆ちゃんがいました。買いに行ってくる様に母に言われて暑い夏に買いに行った事を思い出します。あんなおいしいトマトをまた食べる機会があったら僕は幸せだと思う。

2) 中央商店街に関して

2-A-1) 基本的な考え方

2-A-1-1) 当時の市を歴史的背景で見る、市（いち）はグローバリズムであった。

行政の考え方を短くまとめる以下の様になります。

『行政は人の流れをつくる。商店は売れるものを並べて売りなさい。
商店は企業努力で大手のスーパーやショッピングモールと戦いなさい。
ホームページなどを商工会所などでは造るが、活用するのは企業の自助努力です。』

私の認識は全く違います。

かつて（昭和初期程度まで）市場経済と物流手段、情報流通手段が現在ほど発達していなかった時代はそのとおりだったかもしれません。

しかしながら、市場経済が発達して（同じ商品が低価格で別な店で手に入る）物流手段が発達して（コーンを飼料に短期間で太らせられたアメリカ産の安い牛肉が新発田で手に入る）、情報流通手段が発達した現在では（朝刊の折り込み広告で買いに行く店を決める）ヒトは道を歩いて商品が目に入ったから買う訳ではありません。（無論そう言う場合もありますが他より安いとか他で手に入らないと言う理由が必要です。）

十二齋市が新発田ではかつて開かれていました。実は、その市はその時代の「グローバリズム」だったのです。物物交換が主流だった百姓同士の交易に対して、町民社会が発達し、通貨が流通する。そして農民は出来た産物を商人に売り、商人は市（いち）にいき仕入れ価格に利益を加えて販売する。（価格は競合他者との関係で決まります。消費者は比較して、安い方が売れる）

百姓は農作物を売った通貨で市で自分で作れない商品を買う。

当然市に行くまでどんな物がいくらかという事は（経験的にしか）知らない。

*ここで言う百姓と言うのは網野史学に於ける用例に従います。差別的な意味は持っておりません事をご了承下さい。

確かに、その時代の購入行動は人が集まる所で発生しました。

2-A-1-2) 現在の消費者の消費行動

基本計画では駅西に総合施設を造り、中心街に市役所を造る事で人の流れが出来て中央商店街で物が売れる（売れる物を並べろ）と考えています。

上記（2-A-1-1）の理由から、商品が売れるとは考えにくいでしょう。

現在の消費者は、新聞の織り込みどころかネットで最安値を調べて購入します。大量仕入のスーパーやショッピングモールに値段がかなう訳がありません。大手スーパーと小さな商店では売れる量も桁外れです、新鮮さもかないません。

人は買いたい物がある所にいって買うのです。

この問題は、単に中央商店街だけの問題ではなく、農業従事者においても同様の問題となっています。

ではどうすれば良いのでしょうか？

答えは、今頑張っている商店さんの中、私自身の体験の中に有りました。

2-A-1-3) 私の体験

私は、2001年当時、太郎代にある大太平洋金属の子会社に勤めていましたが会社が（親会社に）倒産させられた時に父の実家（三ノ町：大栄町5丁目の平野屋と言う乾物屋→天婦羅、クルミ豆腐やゴマ豆腐などのお惣菜のメーカー）の店先に事務所を構えソフト部門を設立しました。東京のソフト会社が、大宮の企業から受注を受けて私に発注して、社員を持つことができました。その元請けのやっている事は安い所（新発田）で仕入れて（大宮の企業に）高く売る。まさにグローバリズムです。その企業は僕の受け取った金額の倍の金額を請求していました。

そして突然発注を切られます。
僕はまだこの土地でソフトの仕事がしたかったので、飛び込み営業を始めました。
新潟以北の企業 200社以上、新潟市内の企業 300社を回りました。

結果として新発田市内の印刷会社様から 250万円の受注、新潟の大手ディーラー様を経由して 400万円の受注、新潟市内の中堅ソフト会社様から 250万円の受注、新潟県職員向けの講習会、多くの企業様からの講習会、ホームページの受注（新発田の大手、中小の企業様、新潟市内の化粧品メーカー様）などの受注総額 1500万円以上を受けました。

毎日、飛び込んで入り口で断られる日々が続きます。何度もう駄目だと諦めた事でしょうか。ハローワークに何度足を運んだ事でしょうか。
社員に給料が払えなくて、何度待ってもらった事でしょうか。

その苦しい飛び込み営業を続けるうちに分かって来たことが有ります。

それは、商品売るのではなく、私自身を売ると言う事です。
どんなささやかな仕事でもお客様にとっては身を切る様な出費です。それを何処の馬の骨か分からない飛び込んで来た企業（私）に払うことはできません。
お客様は商品（ソフトウエアや講習会、サポート）を買うのではなく、私を買って頂いていたのです。

私に「大事な売上の一部」を与える事で会社の未来を託してくれたのです。
私はこの体験を忘れることはできません。



また、平野屋での数年で良く話にのぼったのは市の地元企業への復興策です。
同じ商店街の仲間達と話し合いもしましたし、言いたい事は多々有ります。
起業家への支援などに関しても考えていることはありますがここでは論じません。

2-A-1-4) 頑張っている商店の事例

昨年、『「原発」新潟県民投票』の住民直接請求署名に参加しました。その時からころ屋さんという自然食のお店の店主様と知り合うことができました。大変素晴らしい方で10年以上新発田でご商売なさっている会社さんです。マクロビオテックスをベースに、ご自身の体験を踏まえて商品を売っています。

僕の友人でその方のお父さんが医者で診断では何も問題が無いのに元気が出ないと言う事を聞きました。毎日食事を無理にとらせているのに、胃の中で未消化のまま残っていると言うそうなのです。

そこで、ころ屋さんを紹介したのです。その方は早速、お店を訪れて相談をしました。ころ屋さんは単に商品を売るのではなく様々な話をお客さんから聞きます。そしてその人に最適な商品を選んでもらえます。そして僕の友人は話しをしているうちにお店の中でワンワン泣き出したそうです。

その話を聞いて僕も涙が止まりませんでした。誰にも相談出来ない孤独な状態でその友人は苦しんでいたのです。

みんな苦しんでいます。その苦しみはどこに行けば解消されるのか分からないのです。その答えは大手のスーパーやショッピングモールには売っていません、僕と同じ様に、ころ屋さんもコンサルティングをして、その人に最適な物をさし上げたのです。果たしてそれが効果有る物かどうか分かりませんが、オルタナティブな（今までと違った）何かをそのお客様は見つけました。

そのお店では、あなたの知らないあなたに会えるのです。

中央商店街に限らないで新発田で、今、生き残っている商店は、大手スーパーやショッピングモールは売っていない物を売っているのです。

同じ物を買おうとしたら大手と戦う事になります。それは勝ち目の無い戦いです。しかしそこにしかない何かを売ろうとすれば、戦う事無く住み分けることができます。

そう言う商店には根強いファンがいて、そこにしかない商品があります。それは店主の笑顔だったりする場合もあるのです。難しい物では有りません。商店の皆さんはもう答えを持っているのです。

そして、聞く心のない人たちには見えてこないのです。

そう言った小さい商店や企業の事を私たちはどれだけ知っているのでしょうか。

確かに商工会議所なども知らせる努力はしていると思います。

ネットで、「こちら新発田市商店街」と検索すると商工会議所と中央商店街が共に情報発信をしようとしている試みは見るすることができます。（ころ屋さんは載ってません.....）

「十二齋市などの実施」の様な試みも頑張っているなあとは思いますが、決して成功とは言いがたい物です。イベントにお客さんと接する事に価値のある（コンサルテーション型）商店が参加した所でその商店に対しての価値が分からなければ誰も買いません。

人力車や、学生のイベント（見せ物）が有ってそこに人が集まってもその商店のもっている見えない価値が分からない以上誰も買いません。市外から沢山の商店が集りますが、誰も買わないのです。



2-B) 何をすれば良いのか

では何をすれば良いのでしょうか。

市民向けの観光案内所を地産地消ステーションと平行して造れば良いと思います。
その案内所では、中央商店街にエリアを限定するのではなく、全市の頑張っている商店を紹介するのです。
そして対象は市民であり、観光客であると言う所が大事です。

先に挙げた様に行政や商工会議所様も頑張っているとは思いますが、微妙なすれ違いがそこには有ります。
行政は税金を使ってイベントを行い、客を集めてやっていると感じ、商店はわざわざお店を休んで出展しているのに何も売れない。このすれ違いを何とか解消したいと思っています。

「百年しばた」の web サイトではこう言った新発田で頑張っているお店の情報を発信して行きます。
それは中央商店街だけでなく新発田で頑張っている商店、企業の情報の発信です。

こんな店をみなさんは知っていますか？
石喜に加治川の水で育った鯉をその場でさばいてくれるお店があります。
自然食の素晴らしいメニューを用意してくれるレストランが有ります。
結納の道具を買いに行くとこの地域のしきたりや思いを教えてくれる文具店が有ります。(僕もお世話になりました)
その喫茶店では音楽の造詣の深いマスターがバイオリンを弾いてくれます。(僕は37歳から6年習いました)
その天婦羅屋さんでは旬の美味しい材料で天婦羅を揚げてくれます。
その和菓子屋さんでは、何十年も守り続けた味を伝え続けてくれます。
その農園では地飼のニワトリの卵を売ってくれます。(最高の卵掛けご飯が出来ます)
その乾物屋さんでは自分のお店で塩抜きをした荒巻鮭を用意してもらえます。冬だけだけど、お店の皆さん総出で作る昆布巻きは素晴らしいの一言です。

僕らはあまりに自分の街のことを知らなすぎます。

何処かの品評会で賞を取らなくてもそのお店に買いに行く事で毎日僕らは金メダルを贈る事になるのです。

市民向けの観光案内所と言うのは、僕らの知らない新発田にであえるチャンスを市民に与える場所なのです。

3) 駅前総合施設への図書館の移転に関して

3-A-1) 基本的な考え方

補助金を受ける為に図書館を移設する必要がある事には方便として必要なのかと思います。都市部において図書館が駅前に造られると言う事も聞いています。運用を私企業に任せる事も現在の潮流としてある事も事実です。

現在の図書館が30年経って新しい図書館が必要なことも分かります。
ここまでは市の基本計画に対しては理解出来ます。

以下に3-A-1に関連して私たちの考える図書館像、将来、問題点を論じたいと思います。

3-A-1-1) 駅前の高校生の勉強場所としての図書館

駅前で高校生が勉強する場所が無いので図書館が必要だと言う論調です。何人かの司書の方にお聞きしました。高校には既に生徒が勉強するスペースとして図書館の他、HR教室や自習のために解放している教室がある。そこが一杯にはなっていません。確かに、駅前の予備校に通う高校生は、予備校の勉強室が一杯なので駅前に勉強室が欲しいと言う事は聞きます。

3-A-1-2) 駅の電車時間の調整の為に図書館

駅の電車時間を待つ人(社会人、学生に限らない)に取って図書館は有益かもしれません。電車を待つ間に新刊書をめくったり、雑誌を見たりする事は有益かと思います。また、貸し出し、返却の窓口はあって良いかと思います。

3-A-1-3) 駐車場有料化問題。都会とは異なったニーズが新発田にある。

都会では電車が主たる移動手段です。自動車以上に多くの市民が使います。新発田では、そうはいきません。自動車を多くの場合使います。駅前に図書館を造るとなると、駐車場は当然有料となります。無料だと駅の利用者が使います。新潟市のほんポートなどでは駐車場は有料になっています。これは、図書館の使用料を徴収するのと同じ意味をもちます。短時間に限って無料にするなどと言う事も考えられますが、本をゆっくり読みたいと言うニーズとは相容れません。

3-A-2) 市の計画では見えていない視点

3-A-2-1) 観光資源としての図書館

新発田市の図書館には新発田藩の膨大な文献が所蔵されています。新潟県下だけでなく、日本全国から研究者が訪れています。これは大変な観光資源となります。確かに新発田城や足軽長屋、清水園と言った建造物は目に見える観光資源です。しかしながら、この文献、研究は私はずっと大きな観光資源になると思います。またその成果は公開されるべきだと思います。

3-A-2-2) 近接自治体の図書館との比較(1)

豊栄図書館をご存知でしょうか。実にすばらしい図書館を持っています。安藤忠雄さんの設計によるものです。広くてゆっくり本が読める環境です。当然駐車場(34台)も無料です。工費12億円(市の所有地を使用)蔵書は20万冊(22万冊可能)市民代表8名市代表7名の委員会が3年かけて基本計画を練りました。平成11年に開館して、->平成13年10万人->平成16年100万人->平成21年200万人の利用者がありました。豊栄では、図書館とは別に常民の歴史博物館として福島潟干拓の歴史を見ることが出来ます。

現在、聖籠も 10 年かけて図書館の基本プランが出来上がりました。(20 万冊の蔵書豊栄図書館をライバルとしています)

豊栄図書館では、9 人の職員 (7 人が司書) と外部に貸し出しの担当者を派遣で受け入れています。(図書館流通センター：数年契約) 貸し出しデータなどの個人の重要なデータは新潟市のシステムで行っています。果たして、どこまで図書館業務を委託する事が妥当かに関しては十分な調査、検討、の後に判断する事が必要かと思います。

3-A-2-3) 近接自治体の図書館との比較 (2)

豊栄図書館や、阿賀野市の公立図書館では学校図書室との連携を密にする政策を行っています。(両自治体とも、3 年ほど前から始まっています)

豊栄図書館では司書のうち 2 名が学校担当となっています。

単に無料の本の貸し借りの場所ではなく、子どもたちに何を伝えるべきかという事を考える重要な機関となっています。

3-A-3) 市民の財産としての図書館

3-A-3-1) 坪川洵平翁が市民に託したもの

新発田の図書館はまだ社会が貧しくて市民が本も買えない様な頃に造られました。僕もこの図書館で本を読んできました。今も残る記念碑には以下の様に刻まれています。

此処にお越しの方は
SEEK
THE LIGHT OF TRUTH
THE WAY OF HONOUR
THE WILL TO WORK FOR MEN

次の事を探求しなさい。
真理の光と栄光の道
人々の為に動こうとする意志



図書館は単に無料の貸本の場所ではなく、市民が知識を持ち自分自身を深めて行く為の場所であると翁は未来の世代に託しました。

建物を寄贈しただけではないのです。もっと大事なものを託したのです。

この図書館の歴史は世界に誇れるものです。

この歴史を守って行く事は私たち市民の義務だと感じています。

もし、この歴史が失われたらそれは私たち市民の責任です。



3-B) 具体的な提言

私たち市民は余りに図書館の問題に関心すぎました。30年前の設計の現図書館は既に立て替えられるべき物でした。近隣の自治体に負けない素晴らしい物を市民が主体になって考えて行くべきだったのです。それを怠った私たちは大事なものを失おうとしています。しかし、僕はまだ間にあると思っています。僕らには100年あるのですから。

また紙に印刷した「本」と言う媒体が今後どこまで続くかは分かりません。音楽CDがネット配信によって衰退した様に、文字で書かれた本を貸し出すと言うのは比重が少なくなって来ます。

その為に、CDやDVDレンタル業の企業などが新たな市場として図書館業務をターゲットにしています。新聞などのメディアにとってそういった企業は広告主ですから良いことばかりかかれています、既に問題が多く指摘されています。

読み書かせや文化的な事業が重要になって行きます。

3-B-1) 駅前に図書館を移設する件

駅前に、新発田藩の研究資料以外の全ての機能を移設する事は問題があります。一つにはゆっくりと本を読むには駅前は適切ではありません。

しかしながら、駅の乗降客が本を読んで、待ち合いにするのは良いことです。また、検索して欲しい本を朝頼んで返りに受け取るなどと言う事も出来たら素晴らしいでしょう。(早朝から職員がいないと駄目ですが....) 駐車場の問題があるのであくまで駅利用者に対するサービスになります。

図書館の一部機能を駅前に新設する事は良いことかと思えます。駅の橋上化と同時に行う事で補助金も得ることができます。

また、学生が勉強するスペースが新しくつられるのは良いことです。学生の勉強は図書館の本を読みながらするものではないからです。フリースペースがあれば良いのです。そこには資産である本は無くてもいいのです。そうする事で現図書館で学生が場所を占有する問題も解決します。

3-B-2) 本格的な新図書館（観光資源としての新図書館）

将来的に、二の丸病院（旧県立新発田病院）跡地に新しく図書館を造る事を提案します。低階層にして屋上を緑地公園として防災施設を兼用します。省エネにも寄与するでしょう。

その図書館は大きく分けて4つの機能があります。

- 1) 新発田藩の文献研究、常民文化の研究
- 2) 上記研究の展示、発表
無料の駐車場は城址公園と共に使われます。
また中央商店街を通り、駅からの観光客の散策にも最適です。

常設展示、臨時展示を通して古文書の研究は市民にフィードバックされます。また、散逸して行く常民の歴史資料も収集出来るキャパシティがある

と良いでしょう。

そしてこれが大きな観光資源になります新発田城を見て、その時代を思い起こす事は素晴らしいと思います。

幸いな事に新発田には古文書研究の市民サークルがあります。こういった研究が子どもたちに新たな学ぶ心を生み出して行くと確信しています。

3) 市民の為の図書館

まずはニーズを集めて検討したら良いかと思います。時間は十分あります。

4) 学校の為の活動

子どもは私たち全員の宝です。子どもたちに図書館の重要性を伝える事は重要です。

3-B-3) スケジュールとつなぎ

本格的な新設図書館に関しての時期はすぐには言いません。

これからたっぶり3年は自民党政権が続きますので、次の補助金事業が上がってくるでしょう。

それを待つ間に充分計画を練って（市民と市役所が協力してです）行こうではないですか。

新発田市内には多くの遊休施設があるかと思えます。それらを十分に活用する事で分散化を図り現在の問題には解決を図る智慧が必要となります。

また、行政には充分な図書館関連の予算措置をお願いしたいと思います。一番の問題は、建物を建てるよりも継続的な予算措置です。

今回の施策でもう充分だと考えられ図書館がまた今と同じ状態になったら何なりません。

それには、市民が図書館にもっと興味をもち、その意義を理解して行く事が必要です。

司書の方々へのインタビューから感じた事

司書にとっては利用者を知る事が重要な役割など感じています。

司書は少ない予算の中から購入する新刊本の選定をする。時事の問題に即してフェアを開催する。推薦図書を選び、利用者にまだ見ぬ世界を伝える。

そんな時、司書は利用者の顔を思い浮かべているのです。図書館では司書が本を通じて語りかけて来ます。

本を知っている事は大事ですが、それ以上に利用者を知り、愛する事が大事な要素だと思えます。

マスコミが宣伝している本ばかりが並ぶ図書館は不毛です。確かにテレビで宣伝している本を読みたいと言う利用者も多くいるでしょうが、それは図書館本来の役目では有りません。

私たちは図書館で知らない自分と出会えます。

同時に司書は権力から独立した研究者でもあります。世界がおかしな方向に行こうとした時に警鐘を鳴らす事を期待されているのです。そして、市民の応援なしでは実現しません。

フィールドオブドリームスと言う映画があります。その中で地元の図書館である本を禁書にしようという集会が描かれます。そこで禁書に反対する市民の姿が描かれます。実際アメリカの多くの図書館ではサリンジャーの本が禁書になっています。

なぜ司書が国家資格なのか、考えてみて下さい。

不況の昨今、教育系の予算は削られます。次の世代を育てる事を真剣に考えたら最後に削られるべきです。

コストは安いかもしれませんが、企業の思惑で担当者が変わる様な外部委託は図書館には向きません。

図書館業務の外部委託には反対です。

今回の図書館新設と同時に将来にわたる図書館行政のビジョンを知りたいと思っています。市民にとって大事な活動です。

長岡藩の米百俵の逸話を思い出します。

「百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」

4) 市役所の移転に関して

4-A) 基本的な考え方

今回の駅前の問題とは関係する所は少ないと思います。
しかしながら、「にぎわい創出」と言う論点から計画書などにも出て来ているので少しだけ（問題点など）触れます。

4-B) 問題点

- 4-B-1) 駅前の総合施設と市役所が人の流れを生んでも、中央商店街の活性化にはならない。
- 4-B-2) 市街地に市役所を造ると駐車場の問題が起こる。
- 4-B-3) 高層化とバリアフリーの両立は難しい。
- 4-B-4) 現在市民が感じている不便（窓口の分散化など）さを解決しない。
- 4-B-5) 高層化は3.11以降の省エネの流れに逆行する。

4-C) 大まかな解決策

4-C-1) IT 技術、ネットワークの活用

IT やテレビ会議などを通じて建物が分散されていてもコミュニケーションは充分とることができます。

4-C-2) 分散化による柔軟な市政の実現

一つの建物に集約するのではなく分散かする事が望ましいと思います。分散化する事で、将来に渡っての柔軟な市政が実現します。

4-C-3) 分散化=市内の遊休地の活用によるコストカット

今の建物は、耐震設計に問題があるので、合併で新発田内には各地に遊休地、遊休施設がある筈なのでそこを利用する事で経費を削減出来ます。

窓口が地域各所に有って、そこで各種の証明書が出せる様になっているならば市民に対しての利便性が高まります。

当然、専門部署の担当者が話しを聞かなければならないが、テレビ会議をお客様に向ける事で対応できます。

4-D) まとめ

将来的には、ネットを経由して市民の相談を受けたら良いと思います。こう言う話をすると山ほど相談が来て仕事にならないと言う声が聞かれますが、市民から相談や苦情が来る様な市政に問題が有るとは思いませんか？

私もソフトの納品をするととにかく苦情が来ますが、絶対に逃げないで対応します。その対応が信頼、次への受注へと繋がって行く事は実感しています。市民へのサービスと言う事を忘れてはいけません。苦情や相談は、市政の問題を映す鏡です。問題が無くなれば、苦情も相談も消えます。

逆に言えば、苦情や相談が無くなる事こそが健康な市政なのです。

苦情や問い合わせは体の痛みが病気を映し出すのと同じなのです。

補論 1) 住民投票を行うべきかに付いての考察

昨年、『「原発」新潟県民投票』で一緒に活動した人たちや、パブリックコメントを読んで頂いた方からは、リコールを行うべきではないかと言われます。

確かに先の選挙に無かった大規模な開発が行われようとしているのですから民意を確認する必要があるのかもしれませんが。

しかしながら私は反対です。

多くの自治体でリコールが行われると市民は二分されます。そしていがみ合い分裂してしまいます。

今新発田は、一つになって迫り来るグローバリズムの波を乗り越えなければなりません。

人口の減少、企業の誘致、課題は多くあります。

白新線で豊栄止まりの電車が多く運営されているのを私は憂慮します。

かつては白新線の一方のターミナルでありました。

市議会の皆さん、市長、賢人として選ばれた皆さんに僕は期待しています。同じ様に市政をつかさどる市役所の職員の皆さんきっと素晴らしい結論を見つけ出してもらえと思っています。

そして、市民の無関心、公共投資に売上を頼ろうとする弱い心こそが私たちの向かうべき敵なのです。公共投資は麻薬の様な物です。企業を弱らせます。

決して、市長、市会議員、市役所の職員と市民がいがみ合う事は望みません。

皆それぞれに生活があり異なった視点を持っています。

同じ様にスタート出来る場所を見つける事で共感しあい一つになるための一助になればいいなと思いながらこの小論を書いています。

このような機会が与えられた事を感謝します。

100年先の子孫達が素晴らしい人たちがここにはいたのだと言える様になれると信じています。

補論 2) 企業広告にたよるメディアと私たちの生活についての考察

SOP
Sibata Orange Press

シバタ オレンジ プレス ■ 毎月25日発行 vol.22

特集 図書館機能の一部を駅前

「しばた」
を知って楽しみ、
「新しいしばた」
の町をつくる新聞

発行人=阿部 聡 平成25年7月25日号
発行所/(有)アミックス
〒957-0021 新潟県新潟市五十公野 4837-6
tel 090-2733-3568 fax 0254-23-6946

菊水
わかつてきた。
大人の旨さが
そろそろ、
そろそろ、

40周年
ANNIVERSARY
SINCE 1972 あの頃から

菊水酒造株式会社
〒957-0011 新潟県新潟市島田750
TEL 0120-23-0101 FAX 0120-23-5254
www.kikusui-sake.com

先日我が家に配布されたフリーペーパーです。

この表題を見ると事業総額が 22 億円 5 千万円である事が分りません。(このチラシによればこの金額ですが、実際にその金額で収まるかは分かりません)

駅の橋上化を選挙で争点として、総額(38 億円)を打ち出した市長にとってはこの表記はおかしいと感じるのではないのでしょうか?

参考の為に当時のチラシを本論に添付します。(他意はございません) 橋上化での新発田市の負担は6 億 5 千万でした。

また、このペーパーではこの小論で論じている図書館移転の問題点が浮かび上がって来ません。

駅前図書館のデメリット(駐車場の問題など)、現図書館に新発田藩の研究を押し込めると言う視点。今後の図書館予算についての問題(長期にわたったビジョン)、などです。

フリーペーパーと言っても市民に大きな影響力を与える物です。このメディアがジャーナリズムであるならばそれを論じるべきかと思えます。

私は、版元に対して公開質問状を出してWEBに公開したいと思えます。

無論、私企業ですからもどんな記事を書くのも、そう言った公開質問に答えるか否かは自由です。しかし、公的な利益をその存在意義とするメディアならば、誠実な回答がメディアにとっての試金石となると私は信じています。

現図書館は満杯で
すでに収納スペースなし

約4億円で建設できる今だからこそ
図書館機能の一部を駅前に移転すべき

書館の会議室や廊下だけでは、教育委員会
のある豊浦町、五十公野を全て会場な
るし、事務室を借りて食事している人もい
ない。図書館で、人を食べている生もい
ない。建設地についての意見や、建設後の運

新市庁舎を視察した。市民検討
会を経て出された方針は「機能性」
拠点「市民協働」「環境負荷低
この4点に共通した考え方が「経
済」施設の長寿命化、維持費の効
率可能となる設計とし、スペース
用性を持たせることで建設費を
▼高齢者・障がい者向けにエ
ターは設置したが、エスカレー
はない。食堂は360人の職員相
はたとえ設置したとしても採算
にならないだろうという。ない。
ガラス張り照明費を抑え、自然
システム採用で空調費の削減を
▼これは、生産性のない新市庁舎
設・維持費を極小に抑えること
で、浮いた予算を他の新たな備
えむ事業に回すという発想で、い
も実業の町・燕らしい▼ひるが
、当市、新市庁舎建設地選定の参
照した市民アンケートでは、建設コ
ストは選定の指標としては1番目と
なした。東中地区小学校統合でも
経済的な凸版隣地案は消えた。次
加のかわらない現地案を採用し
約4億円の割増になるのか。4
あればできることはたくさんあ
り▼経済効率最優先も困るが、財
政の昨今各種事業施行の際、経済効
いいか悪いかは大切な判断材料
を付ければ他の事業に回せる。

コラム
経済効率

ルレクチエの花(菅谷)



現在市内には長年蓄えた栽培経験をもち、これに考え得る限りの生産技術を駆使して、サイズは直径25mm以上のものを中心に、大きいものは直径30mmのものもあり、これだけの大玉は本場山形でも珍らしい。甘じつしいのも今年は糖度を高めさせた。皮は赤い色つや、香気ともに申し分ない。厚く美しく、食べて美味しい五公野のサクランボとして、ブランドを確立しつつある。

しかし、約20年前に新築したハウスは老朽化し、更新時期を迎えているものの、

農林水産省の「産地振興」だったはずだが、なぜ、サクランボは補助金対象作物から外されたのか。生産戸数も生産額もトップテに入るサクランボが支援から外される理由。「予算の限りがあつたから産地化できるものを優先して選んだ。サクランボは生産戸数も少なく、産地化としては優先順位がやや低い。今回の状況をみれば、思いま」 というのが、市農林水産課の見解だ。しかし、資料を点検すると平成24

コストを極限に抑えた 燕市新庁舎



ほぼ長方形で1階に市民、福祉部門のカウンターが並んでいて、市民は1階でほぼ用が足りる。特徴は「まっつり広場」を災害時に防災拠点とすること、外壁を総ガラス張りして自然光を取り入れる、吹き抜けで自然換気を図ること、徹底的にランニングコストの削減を図っていることだ。この文脈から、高齢者・障がい者向けのエレベーターはあるが、エスカレーター・食堂は使用頻度が低いとして設置していない。

フリーペーパーは企業からの広告で成り立っています。企業は当然広告料を払いますが、何らかの見返りを求めます。

僕が疑問なのはここにページの一行広告です。何の企業イメージも打ち出さないうで、ただ名前だけが載っています。このペーパーの読者は一般の市民のはずです。この広告を見て何を買いにくるのでしょうか？

これらの企業様には公開質問状を出して、広告出稿の意図、金額（非公開）、広告に対しての反響をお聞きしたいと思います。

「百年しばた」に対してのご意見も頂きたいと思います

燕新庁舎の記事に関しても編集意図をお聞きしたいので、版元様に対しての公開質問状を追って作成したいと思います。

市長助辞（観光・産業振興）
 ◎全国あやめサミット（7月6日）

市長は宮城県多賀城市で開かれた「全国あやめサミット」に参加。来年開催の月岡温泉開湯100年記念イベントなどを宣伝し、観光誘致を訴えた。また、来年開催される全国あやめサミットの新発田市での開催を要請。誘致に成功、五十公野公園のあやめ園は山形県長井、茨城県潮来、千葉県佐原と並び4大あやめ園と呼ばれるが、観光資源として県外客を呼び込もうと試みた。

しかも販売は可能な時代になった。よい作物（商品）なら消費者の購買意欲はわく。設備費用の補助があれば、適正な利益を残しても販売価格が抑えられ、消費者も買いやすくなる。行政は「産地化」にこだわらず、サクランボを含め、まずはよい作物（商品）を生産する意欲ある農家（事業者）を育成・支援すべきである。

弊社は8月27日（火）、高品質産物をその価値に見合った価格で販売しているデザインフルーツ（株）代表の丹羽真澄さんを招き、「高品質で元気な野菜・果樹を適正価格で売る方法」と題し、講演・研究会を行う。意欲ある農家の参加（無料）を募集する。問い合わせ先 TEL.030・271000・3 (500名)

蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222	茨木建設(株) 新発田市長巻 284-1 TEL.0254-23-6861	介護老人福祉施設 陽だまり苑 新発田市岡田 1746-1 TEL.0254-20-3600	(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761
飯豊電設工業(株) 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134	篠田労務管理事務所 新発田市新高町 1-5-9 TEL.0254-22-5649	複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市豊町 110-39 TEL.0254-24-1111	(株)ワゴードライ 新発田市成々木 3445 TEL.0254-27-2261
(株)伊藤組 新発田市豊満 1273-1 TEL.0254-22-4176	新発田建設(株) 新発田市富塚 1942 TEL.0254-27-5711		
(株)イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056	島津印刷(株) 新発田市富塚 1419 TEL.0254-27-2101		
(株)岩村組 新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550	(株)新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011		
SODデザイン 高岡智志 新発市新栄町 1-13 ストライトビル2階 TEL.0254-24-5121	大進電業(株) 新発田市成々木 1895-9 TEL.0254-21-5000		
小野寺税務会計事務所 新発田市大栄町 2-7-7 TEL.0254-22-3497	(株)大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191		
(株)下越道路 新発田市新高町 1-1-5 TEL.0254-23-2296	新潟ファームサービス(株) 新発田市五十公野 4104-1 TEL.0254-20-3828		
(有)クサカバモーターズ 新発田市五十公野 4836 TEL.0254-22-8311	フジマ舗道(株) 新発田市豊満 4197-3 TEL.0254-28-5030		
(株)こじまホールディングス 新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381	扶桑畜産(有) 新発田市米倉手廻線 4656-1 TEL.0254-28-5136		
小林税務会計事務所 新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705	山田建設(株) 新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700		
小柳産業(株) 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010	村上館湯伝 新発田市月岡温泉 230 TEL.0254-32-2231		

補論 3) 参考資料 : 先の市長選での現市長の公約

新発田市の持ち出しが6億5千万円であるのに総額を表記している補論3の資料として現市長の選挙のチラシを収録します。メディアもこれに習って、見出しには総額の表記が必要かと思いません。(他意はございません)

二階堂かおる後援会報第5号

平成22年11月9日発行
発行責任者・小島慎二

駅橋上化は中止!

もし38億円あったら 教育・福祉・成長戦略 に使うべし!



小学生医療費無料化、
保育料無料化に向けて!

市職員の
総人件費10%削減!

(討議資料)

TEL.0254-24-2121

FAX.0254-20-8002

二階堂かおる後援会事務所

ホームページ <http://www.nikaido-k.com>

〒957-0061 新発田市住吉町5-4-357

二階堂かおる後援会

検索

E-mail nikaido-k@aroma.ocn.ne.jp

保育料無料化に向けて!

新発田市役所の人件費は平成21年度決算で約80億9千万円(「広報しばた」10月15日号※水道局職員は除く)。これの**10%を削減すると、約8億9百万円が、恒久財源として毎年使える**こととなります。

新発田市が保護者の皆さんからいただいている保育料は年間、約5億1千万円です。**いきなり保育料無料とはいかなくても、無料化に向けての財源は確保できる**こととなります。また、小学校6年生までの医療費を無料化すると、最大で6千6百万円余計にかかるという試算ですが、こちらはすぐ無料化し、将来的には中学生での無料化を目指します。二階堂かおるの政治指針は「新発田の子どもたちの未来のために」なのであります。

このほかにも、介護施設の充実やワクチン接種費用の補助などにもお金をかけなければなりません。市職員

の皆様には少し我慢をお願いし、これらの費用をねん出したいのです。もちろん市長の報酬は30%カット、市長専用車は廃止、副市長は1名にするなどの「節約」もあわせて行います。

ちなみに、**市の職員の平均給与費は年間約580万円**(前出「広報しばた」平成22年度予算※水道局職員は除く)、**平成20年の新潟県の常用労働者の平均給与額は年間約356万円**(「平成21年度版新潟県統計年鑑」※事業所規模5人以上、平均月額296,666円×12か月)とされています。この官民収入格差は民間が低すぎるとも言えるのですが、その意味でも「成長戦略」「地元産業育成」にちからを入れて、企業や家庭の収入を増やしていかなければなりません。積極的・効果的な施策を実施するには、まず財源を確保しなければなりません。

●財源なくして、成長なし!

市職員の総人件費は10%削減!

財源確保のもう一つの方法は、事業仕分けを徹底して、ムダな事業を見直すことです。

その第1が「**新発田駅の橋上化**」の中止です。駅橋上化は必要性が低い上に、**約20億円という新型まちづくり交付金がもらえる確約はなく、もらえなかったら、誰が払うのでしょうか。**仮にもらえたとしても、市の負担は約6億5千万円とのこと。これだけの歳出をすれば、当然、福祉・教育の予算は圧迫され、地元産業育成のために必要な投資もできなくなる可能性があります。

その場合「ツケ」を払われるのは市民であり、子や孫たちです。大切な血税の使途として認めるわけには、いきません。「**駅橋上化**」はしなくとも「**バリアフリー化**」

はできるのですから、「**駅橋上化**」は中止して、病気の方、障がい者の方、お年寄りや妊婦さんにやさしい「**バリアフリー化**」(村上駅の場合、村上市の負担は約1億1千万円)や「**東口の利便性確保**」は推進すべきです。

他の事業も事業仕分けで見直して、財源を生み出し、浮いたお金は福祉・教育・女性支援・成長戦略・地元産業育成に回すべきです。

成長戦略としては、アスパラなど高機能性食品の多い農業・食品加工業と観光をリンクさせて交流人口を増やし、まちなかを活性化、経済成長を達成するというのが、二階堂かおるのプランです。仕事・収入がなければ食べていきません。地元産業育成は必須の政策課題です。

駅橋上化は中止! <浮いたお金は福祉・教育に回す> バリアフリー化は推進!

補論 4)私のこと

私は1960年(昭和35年)3月生まれです。父母共に新発田で生まれ、育ちました。

明訓高校に通い神奈川大学に入りました。大学では憲法を学びました。卒業後「新評論」と言う出版会社に入社できましたが半年で解雇されます。バブルで最初に倒産した「マルコー」と言う不動産デベロッパに入社して、そこでappleコンピュータと出会います。appleに未来を感じた僕はキャノン販売の子会社(キャノテック)に入社します。そこで、社長の経営方針と相容れない事になり、退社しました。そして最初の起業を試みます。その会社は(独力で) 經理のパッケージソフトを出しますが様々な要因から売れませんでした。(今考えれば当たり前の事なのですが.....)

東京で生活を続けることができなくて新発田に戻ります。父方の叔母のコネで大阪の下水道コンサルタントに半年ほど勤めます。(首になりました) 毎日談合の入札で市役所を回りました。憂鬱な仕事でしたが大阪は楽しかった。

新潟に帰ってからは就職先も無く、父が50年勤めた大太平洋金属の子会社に入社します。当然、ソフトの仕事に就くだろうと思ったのですが、3年間現場で鉄を切る仕事に従事します。組合の委員長となります。全国的に鉄鋼業界の再編の波に巻き込まれ、大太平洋金属は発注を止めると通告して来ました。退職金割り増し0円と言う宣言にストライキを行うと心を決めて労働争議を指導して1億3千万円の割り増しをえることができました。

しかしながら僕は組合の委員長と言う立場に酔ってしまい、組合員の言葉を聞く事を忘れました。最後には組合はバラバラになりました。社長は口頭での約束を反古にしてすぐに社宅から退去する様に文書で通知して来ました。半年そこにいると宣言したら大太平洋金属から350万円の訴訟を起こされました。裁判の場で交渉の後和解しました。(苦しかった)。

その後、豊町に住みました。当然僕のような人間には働く場所は有りませんでした。大栄町に所在のある平野屋の一角に事務所を構えました。東京の会社からソフトの仕事を請け負って10年近くの年月を過ごしました。先に書いた様にその時期に飛び込み営業を行い、新発田で生きて行く決意をしました。

補助金をこの時期に受け取っています。最初の平野屋にいた時に400万円の補助金を受け取りました。東京から大きな仕事が入り2011年にはNICOの援助を受けてトキメッセの11階にオフィスをもちました。2012年にはe起業館と言う新潟市の施設で数名のスタッフを雇い開発を行いました。残念ながら新潟のオフィスを引き払い新発田にいます。

そして今は、webアプリと言う分野でのソフト開発に企業の向かう方向を絞っています。

2012年には友人に誘われて『「原発」新潟県民投票』の署名運動に参加しました。直接請求の現場にいた事は今の僕に大変なインパクトを与えてくれました。住民の自治の意識が無ければ民主主義は適切に機能しないことを知ったのです。

ここ2週間ほど、納期のある仕事と百年しばたプロジェクトでまともに寝ていません。けど、僕は幸せだと感じています。こんなに多くの新発田を愛する人たちと出会えたのですから。共に語り合える事は何よりも幸せです。

この小論は多くの方のご協力で出来た物です。

7月15日～25日の取材や多くの方に言葉を頂いた事が何よりの励みになりました。皆さんに感謝します

論理的に整合の無い部分も有る事もあるかと思えます。
しかしながら心はこの文書に書けたと思っています。

この小論を読んで頂いたある方にどこでこんな事勉強したんだと言われました。その時ははっきりと答えられなかったのですが、今ならば自信を持って言えます。それは図書館です。僕は図書館は単に本の貸し借りではなく、学ぼうとする市民に希望を持たせる大事なものだと思えます。

大学を出た後14回転職をしながらも学びたいと言う心を消し去る事は出来ませんでした。

坪川洵平翁の言葉をもって百年しばたプロジェクトの宣言とします

**SEEK
THE LIGHT OF TRUTH
THE WAY OF HONOUR
THE WILL TO WORK FOR MEN**

次の事を探求しなさい。
真理の光と栄光の道
人々の為に動こうとする意志

まだ見ぬ仲間を信じて百年しばたプロジェクトの宣言とします。

文責 齋藤真也
2013/7/29 AM8:00
2013/7/31 AM5:00
2013/8/1 AM6:00



企業は人と良く言われます。

私は、市政も人と考えます。

この小論が、分断ではなく共感を、そんな事を考えながら書きました。

未来を夢見る市民が一人でも多くなれると信じています。

もう手遅れかもしれません。けど僕らには百年の時間があります。

市民が自覚を持ち、真の代表者を選べる様になる事を信じています。

駅前開発、新庁舎が私たち市民の愚かさのモニュメントとならないこと

いがみ合いではなく、友愛と共感が私たちに生まれると信じています。

それこそが坪川洵平翁の「真理の光と栄光の道」です。

共に語り合い、見つけましょう。